

## 県指定文化財(天然記念物)「カカツガユ」の

### 伐採禁止の注意書を貝ノ川の繁殖地に掲示する！

9月2日(木)午前中、土佐清水市文化財審議委員・上田正子委員、国立公園\*ジオパーク推進課・森口夏季専門員(植物学者)、生涯学習課・池内正樹(課長補佐)、田村公利(市史編さん室)の4人で文化財巡視パトロールを行いました。

巡視場所は、サニーロード沿いの貝ノ川郷地区の山斜面に高知県指定文化財(天然記念物)のカカツガユの繁殖場所があり、その状況の確認を行いました。カカツガユは、クワ科ハリグワ属の長さ3mほどの常緑低木であり、枝は蔓状でトゲがあります。一般的にはその存在はあまり知られていません。そこで地域の方々が草刈りなどで誤って伐採しないように、伐採禁止の注意書を丁寧に掲示しました。

カカツガユは、国内では山口県や四国南部、九州から沖縄にかけて広く分布しています。国外では、台湾・中国南部からインド、東アフリカ、オーストラリアなどに生育しています。4~5月に花期を迎え花被が液質に肥大して果実を包み、径1.5~2cmの集合果となり、11~12月に橙黄色に熟します。

この貝ノ川郷地区には、カカツガユの他にも恩神社内に大樟(土佐清水市指定文化財)が所在しています。本年9月3日付け高知新聞1面記事に「県内天然記念植物ピ

ンチー1割に高齢化・災害影響・保全苦慮」と題した記事が掲載されました。その中にこの樟も大豊町の杉の大スギ(国指定)等とともにリストアップされています。

この春、樹木医さんに診断していただいたところ、着生しているアコウの除去を行い、樹木が元気になるよう対策を講じていく必要があるとのことでした。生涯学習課では、来年度予算計上し、これらの保護対策を講じていきたいと考えております。



↑ 貝ノ川郷地区のカカツガユ自生地

## ◆「第2回土佐清水市史編集委員会」の日程が決まりました！

(日 時) 9月29日(水)14:00~16:00

(場 所) 土佐清水市立中央公民館3階・多目的ホール

(内 容) 細則とゲラ刷り原稿の確認、著作権許可申請について、その他。

(その他) 開催時間をお間違いなく。報酬・旅費支給される委員は印鑑持参が必要。

## ◎「土佐清水市史」資料用写真撮影

### —震洋特攻艇格納壕越基地の上空からの写真を撮影—

8月30日(月)10時より、市史編集委員出原恵三氏と市史編集調査協力員大原純一氏が来市し、震洋特攻艇格納壕越基地の遺跡写真をドローンで上空から撮影しました。ドローンの操縦と撮影は国立公園\*ジオパーク推進課・森口夏季専門員にお願いしました。大原純一さんには、測量調査の残り部分を進めていただきました。



↑崩落しているものもあるが15個もの格納壕が現存するのは全国的に珍しい。



↑国立公園\*ジオパーク推進課の撮影用のドローンを借用し、同課の森口夏季専門員に操縦と撮影を依頼。同課と生涯学習課は、自然災害碑の合同調査・市内のジオパーク活動・文化財保護活動等で連携をさせていただいています。今後も市域の様々な活動でパートナーとして一緒に活動させていただきたいと考えております。(田村)